

コレクション展 堆朱・鎌倉彫・根来

2015 年 7 月 14 日(火)～7 月 26 日(日)
8 月 4 日(火)～8 月 30 日(日)
南館 2 階第 17 陳列室

朱漆を塗り重ねて、図を彫り表す「堆朱」は鎌倉時代以降中国から禅文化とともに我が国にもたらされた。渡来した器物を唐物として手元に置くことが寺院のみならず将軍や大名の間でも盛んになるとともに、日本国内で中国製の器物を模して作ることが始まった。なかでも堆朱を模して仏師が関わり製作した木彫漆塗の香合など仏教関係の器物は、後世鎌倉彫といわれ珍重され仏教儀礼の場で用いられた。一方、社寺や城館などでの生活の様子を表す絵巻には朱や黒漆を塗った飲食器や什器が描かれている。これらの漆塗の什器には無文のものや簡単な絵を漆で描いたものなどがあり、江戸時代には紀州の根来寺にちなんで「根来」と呼ばれるようになる。「根来」は必ずしも根来で製作されていたわけではなく、京都をはじめ広く各地で製作されていたが、数寄者によって「根来」の呼称が用いられ、いつしか根来寺で製作されたかのごとく語られるようになった。

- | | | |
|--------------|---------------|-----|
| 1◎鎌倉彫 牡丹文大香合 | 室町時代 15 世紀 | 南禅寺 |
| 2 鎌倉彫 牡丹文香合 | 室町時代 15-16 世紀 | |
| 3 鎌倉彫 牡丹文香合 | 室町時代 15-16 世紀 | |
| 4 鎌倉彫 牡丹文香合 | 室町時代 15-16 世紀 | |
| 5 鎌倉彫 屈輪文茶器 | 室町時代 15 世紀 | |
| 6 鎌倉彫 鳳凰文香合 | 室町時代 16 世紀 | 来迎寺 |

7 堆黒屈輪文 筆 南宋時代 13 世紀

木胎に漆を何層も塗り重ね、表面に黒漆を塗り、文様を彫り表す技法を中国では「剔犀（てきさい）」「犀皮（さいひ）」、日本では「堆黒（ついこく）」という。鎌倉時代、禅宗とともに香合や香盆、文房具などが中国から伝わった。文様は亀甲に屈輪文が組み合わされている。中国の雲文から転じた如意雲文（にょいうんもん）を日本では「くりくり」から「屈輪（ぐり）」と呼ぶ。後に日本でこれを模して木に文様を彫り、漆を塗る手法で仏具が作られ、鎌倉彫といわれるようになった。

8 鎌倉彫 屈輪文払子 南北朝時代 14 世紀

獣の毛を束ねて短い柄をつけたものを払子と呼ぶ。古代インドでは虫を払うために用いられていたが、後に僧侶が威儀をととのえるための持仏となり、中国から日本に渡来した。本器の柄の部分は木に亀甲文の内側に屈輪文を彫り表し、彫漆が塗られており、中国製の彫漆の作例を模したものと考えることができる。本家ともいべき中国製の堆黒の払子としては九州国立博物館に南宋時代の屈輪払子があり、また「堆黒 屈輪文筆（7）」などの例も見られる。

- | | | |
|-----------------------|--------------|--------------|
| 9 堆朱 牡丹文大香合 | 明時代 15-16 世紀 | 南禅寺 |
| 10 堆朱 牡丹文天目台 | 明時代 15 世紀 | 本館蔵・田万コレクション |
| 11 堆朱 馬大師 居士相見回答之図大香合 | 明時代 15-16 世紀 | 祥雲寺 |
- 中国、唐代の僧大寂禅師（709-788）は南宗禅の祖となったことから馬祖（ばそ）として知られる。

在家の弟子に居士（ほうこじ ？-808）がいる。居士は馬祖と石頭に参禅して印可を得る。禅僧との多くの問答が知られており、後に伝説となり水墨画や文学の主題となる。本図もその一つで、居士が「万法と侶（とも）たらざる者、是何人（なんびと）ぞ」と馬祖に問うたところ、馬祖が「一口に黄河の水を吸い尽くすことができるなら悟りをひらくことができる」と答えたという問答を描いている。禅画を表す堆朱の作品は大変珍しい。沢庵和尚創建の祥雲寺（堺）に伝わった。

12 堆朱 牡丹蓮文大香合 明時代 宣徳年製銘 15 世紀 祥雲寺

13 堆朱 牡丹文盆 明時代 15-16 世紀 大阪市立美術館・カザールコレクション

14◎堆朱 牡丹孔雀文盆 元時代 14 世紀 大仙院

朱漆を塗り重ね、牡丹と孔雀の文様を彫り表した盆。元の名工といわれる張成作銘がある。大徳寺の塔頭大仙院を建てた古岳宗旦（1465-1548）の没後、後奈良天皇（1497-1557）が贈ったといわれる。大徳寺には同じく張成作「堆朱椿尾長鳥文盆」（重要文化財）が興臨院にある。

15 根来 菜桶 鎌倉時代 法華寺 徳治二年（1307）銘

黒漆と朱漆に塗りわけられた手桶。底に朱漆書きで『菜桶廿四口□□ 法華寺常住 徳治二年□□□』の銘文が記される。銘文から奈良の法華寺に伝わった二十四口の菜桶の一つとわかる。菜桶は寺院で野菜を入れて運ぶために用いた。本器の他にも細見美術館所蔵の重要美術品、文化庁保管など、何点かの類品が知られており、鎌倉時代の 治二年に揃えられものの一つと考えられる。

16 根来 菜桶 室町時代 15 世紀

17 根来 高杯 室町時代・天文四年（1536）銘

表を朱、裏を黒漆に塗りわけた高杯。天板の裏に「天文四年乙羊 万膳賢弘」の銘文が朱漆で記される。万膳家は鹿児島県霧島市万膳縁の家系であることから、周辺の神社に奉納されたものと推測されている。本器の類品は名古屋市博物館などに数点確認されている。

18 漆絵 桐鳳凰文瓶子 室町時代 16 世紀

19 黒漆塗 輪花盆 南宋時代 14 世紀

20 根来 輪花盆 室町～桃山時代 大阪市立美術館・田万コレクション

21 根来 蓬萊漆絵瓶子 室町時代 15 世紀

22 根来 足付盤 桃山時代 16 世紀

23 根来 牡丹文沈金茶器 室町時代 15 世紀